

## <<触媒年鑑に関するお詫び>>

皆様にはいつも触媒年鑑の出版に、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。

本年も触媒年鑑は触媒学会創立 60 周年記念号として 2018 年版を出版いたしましたが、原稿の編集・印刷過程で重大なミスがあり、執筆者はじめ皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまいました。

ここにお詫び申し上げますとともに、その発生原因、今後の対応についてご報告いたします。

### 1. 編集・印刷ミスの概要

触媒年鑑の第 1 編：「2. 触媒—これまで、そしてこれから」および「4-2.1—ヘキセン選択製造触媒の開発」の編集・印刷過程で執筆者の原稿とは違う原稿が印刷・製本されてしまいました。

具体的には、執筆者が最終原稿を提出したにもかかわらず、印刷・製本されたのは、その最終原稿ではなく、編集者が執筆者の了解を得ずに手を加えた編集者稿でした。この編集者稿は執筆者の意図に反するものであるとともに、学術的に誤った表記も含まれる不適切なものでした。

### 2. 編集・印刷ミスの原因

本件について編集・印刷ミスの調査を行い、以下の 2 つを主な原因と判断しました。

#### (1) 編集者が執筆者に無断で原文に手を加えて変更した

原文に対して、編集者は誤字脱字の修正だけでなく、文言についても手を加えていました。

また、「2. 触媒—これまで、そしてこれから」の原稿については、原文に記載されていた「謝辞」の項目を執筆者に無断で削除していました。編集者が執筆者の了解なく、原文の誤字脱字以外にも直接手を加えたことが、執筆者の意図に反する原稿が印刷・製本される原因となりました。

#### (2) 編集者は執筆者から提出された原稿を最終原稿とせずに、編集者稿を印刷した

執筆者は編集者が手を加えた編集者稿（「謝辞」の削除や編集者が変更した文言を含む）に対して、改めて修正（修正箇所は 20 か所以上）を行い、最終原稿として提出したにもかかわらず、編集者は、編集者稿を印刷してしまいました。執筆者が最終原稿を提出する際には、編集者に改めて修正する旨の連絡を出し、更に「最終版をお送りいたします」との連絡もされていました。こういう状況にもかかわらず、編集者は自ら手を加えた原稿を印刷・製本したことが今回の重大なミスの直接の原因となりました。

以上 (1)、(2) は編集者が長期に渡り触媒年鑑の原稿執筆、編集に関わってきた結果、慣れや慢心から、緊張感に欠ける編集作業を行ったことが原因と考えられます。一方、出版委員会は編集・印刷作業を編集者に過度に依存し、適切なチェックを行わなかったという問題がありました。

編集者には厳重に注意するとともに再発防止を徹底することを申し述べました。また、二度と同じミスを犯さないため、今後は出版委員会が最終的に印刷の可否を判断する下記の対応に変更いたします。

### 3. 今後の対応

#### (1) 編集・印刷ミスのお知らせと正規原稿の開示

今回の編集・印刷ミスのお詫び、及び正規原稿へのアクセス方法を触媒学会のメールマガジンに掲載します。これと共に、正規原稿を OnTheWeb に掲載します(この正規原稿 pdf は OnTheWeb に残します)。また、触媒学会 HP のトップページの「重要なお知らせ」に謝罪文を掲載します。「重要なお知らせ」に掲載された記事は、意図的には削除しません。但し、追加記事が入る度にその記事は画面上では下に移動しますが、スクロールすることで見ることはできます。

#### (2) 今後の年鑑出版における編集・印刷作業のフロー見直し(マニュアル化する)

- ① 編集者は原文で修正・確認が必要と思われる箇所をコメントとして執筆者へ連絡する。  
(編集者は原文には手を加えない)
- ② 原文修正はすべて執筆者が行い、執筆者が「最終原稿」として編集者に提出する。
- ③ 編集者は「最終原稿」を印刷するために書体を置き換えるが、最終原稿の書体に照合一致させる。
- ④ 編集者は印刷「ゲラ」の pdf を執筆者に送り、執筆者は「ゲラ」を確認後、印刷してよいことを出版委員会に回答する。
- ⑤ 出版委員会が執筆者の回答を受けて、印刷業者に印刷開始を指示する。

以上、今後は、触媒年鑑の編集・印刷作業に細心の注意を払って行ってまいります。皆様のご支援よろしくお願いたします。

2018年5月11日  
触媒年鑑出版委員会